

CSRマネジメント報告

BXグループでは、社会の課題やニーズを踏まえた上で、社是・経営理念に基づく「CSR憲章」の4テーマごとに年度の目標を定め、活動を実践、評価しています。

CSR憲章

成長と共に

公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、BXグループの成長を追求します。

社会と共に

人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します。

地球と共に

全ての事業を通じ、エネルギーの省力化に努め、地球環境の保全に自主的に取り組みます。

働く仲間と共に

働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします。

CSRマネジメント

「CSR憲章」4つのテーマと「CSR行動指針」を基に活動

BXグループは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」と、それを実践していくための「CSR行動指針」を定めており、従業員一人ひとりが共感し、自ら実践することおよび、コンプライアンスを徹底することにより、社会から信頼される企業をめざしています。

CSR行動指針

成長と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様の満足を追求 ● グループの成長・発展 ● 誠実な企業経営
社会と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業市民としての社会貢献 ● 人道的社会貢献 ● 文化活動の支援
地球と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷を軽減した企業経営 ● 環境配慮技術・商品開発 ● 自主的な環境保全活動
働く仲間と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権の尊重 ● 雇用の創出 ● 満足度の向上

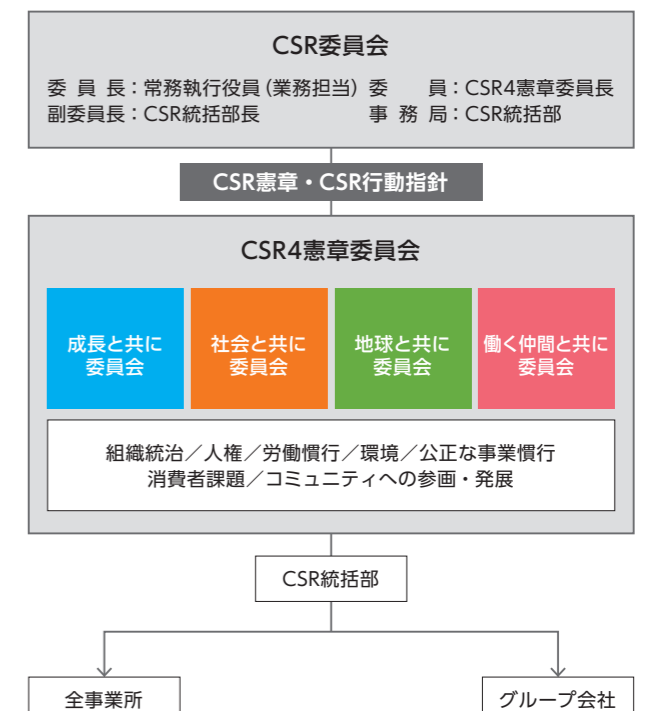
また、企業活動を遂行するにあたり、社会的責任やステークホルダーのみなさまからの期待に応えるべく、「CSR行動規範」として4つの約束を掲げ、企業人として守るべき最低限のルールを定めています。

CSR行動規範 (法令、規則に基づくルール)

顧客・取引先との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公正、公平な取引 2) 贈答・接待について 	<p>BXグループは、独占の禁止、公正な競争、公正な取引に関するあらゆる法令・規律を遵守します。</p> <p>BXグループは、業務上における接待および贈答の授受には細心の注意を払って対応します。</p>
従業員との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 働きやすい職場環境の確保 2) 内部通報 	<p>BXグループは、働きやすく、やりがいのある職場づくりに取り組みます。</p> <p>BXグループは、公益通報者保護法に基づき、通報者の権利を保護します。</p>
株主との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 正確な記録および報告 2) インサイダー取引の禁止 3) 利益相反の禁止 4) 会社資産の保護 	<p>BXグループは、会計帳簿、財務関係記録の全ての記録、報告に関して事実と反することなく、適時かつ適切に作成します。</p> <p>BXグループは、業務上知り得た未公開重要情報を株式や証券の取引による利益取得のために、利用しません。</p> <p>BXグループは、事業活動および業務上の判断を行う場合、BXグループにとって不利益とならないように考えて行動します。</p> <p>BXグループは、会社の資産を大切にします。</p>
社会との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 情報の管理 2) 反社会的勢力への関与禁止 3) 知的財産権について 	<p>BXグループは、業務上知り得たBXグループおよび第三者の機密情報および個人情報、適切且つ厳重に管理します。機密情報には、公的に開示されていない情報、取引先との間で守秘義務を負っている情報、営業に関する情報、知的財産権に関する情報、財務情報、経営戦略情報および業務上のパートナーとの関係等の情報が含まれます。</p> <p>BXグループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関わりません。</p> <p>BXグループは、知的財産権を尊重します。</p>

CSR推進体制

常務執行役員(業務担当)を委員長、CSR統括部長を副委員長、CSR4憲章委員長を委員とする「CSR委員会」を設置し、活動方針を審議・決定しています。決定した方針に沿って、CSR4憲章委員会とCSR統括部が中心となってテーマごとに活動を推進しています。



2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● 「ライフ・イン」の発想による提案型製品・サービスの提供	● 工事不要で軽量タイプのBX止水板「ラクセット」およびHEMSと連動しスマートフォンでコントロール可能な電動窓シャッター「マドマスタースマートタイプ」等を発売 → P17-18、P29-30 ○
● ストック市場への対応強化	● 防火設備に関する検査報告制度への対応 ○
● グループシナジーの最大化とグループコンプライアンスの向上	● コンプライアンス教育の強化 ○ ● ベトナムにおけるグループシナジーの発揮 ○
● 東南アジアを中心とした海外事業の拡充	● Eurowindow joint Stock Company社との資本提携 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
● 「ライフ・イン」の発想によるエコ・防災事業の強化
● ストック市場に対するメンテナンス事業の強化
● グループシナジー最大化とグループコンプライアンスの向上
● 東南アジアを内需と捉えたパートナー戦略での海外事業強化

2015年度も、「快適環境のソリューショングループ」の実現をめざしたさまざまな取り組みが行われました。新しい時代に向けたイノベーションを起こすためには、全従業員が一丸となり、高い目標を掲げ、自ら考えた方策を実行する必要があります。グループの成長を推進する事業として、特に止水事業では近年のゲリラ豪雨への対応として生活者視点で追求した商品バリエーションの充実を図っており、2015年4月には既設の建物にも設置が簡単なBX止水板「ラクセット」の発売を開始しました。2016年度は新中期経営計画のもと、「新たな挑戦」を掲げ、経営基盤を軸に、開発、営業、製造、設計、施工の、それぞれの分野の中で、さらなる革新を図ることで目標を達成していきたいと考えています。

成長と共に委員長

文化シャッター
経営企画部
広報室長

曾根 政行



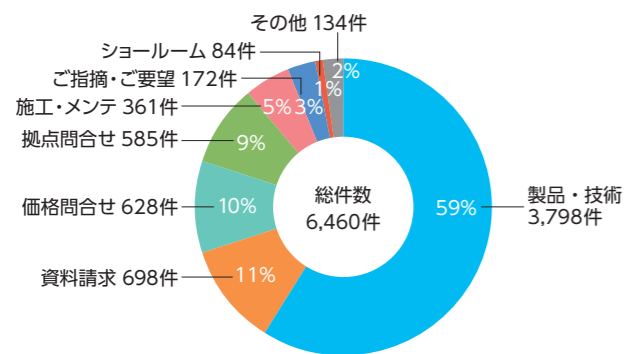
お客様の満足を追求

お客様相談室の取り組み

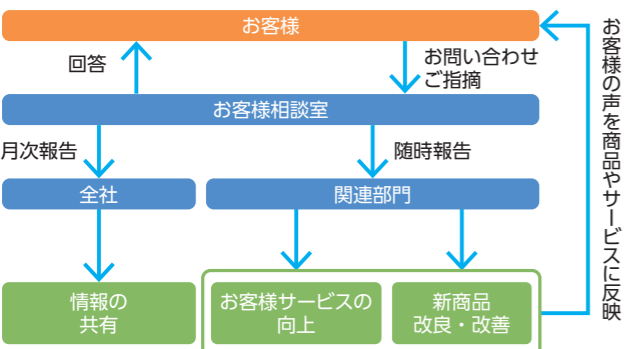
BXグループはお客様の要求品質に応えるために、企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス各部門の仕事の品質を向上させるとともに、グループ全体としての品質保証体制を構築し、お客様より信頼される品質をめざしています。その中でお客様相談室は、お客様と会社をつなぐ架け橋となるため、お客様から電話やメール等でいただいたお問い合わせやご指摘に対し、適切、迅速そして誠実に応対することを心掛けています。

お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門に伝え、新商品の開発や製品の改良・改善、ホームページやカタログのリニューアルに活かし、お客様満足の向上に努めています。また、社内のポータルサイトには月次報告を毎月掲載し、全社で情報の共有を図っています。今後もお客様より信頼される品質を追求し、邁進していきます。

2015年度 お問い合わせ内容



お客様対応の流れ



VOICE

お客様相談室は、お客様の声を直接受け取ることができる貴重な役割を担った部門です。お客様の声を社内へ公正、誠実に伝え、BXグループの成長と社会の発展に寄与できるよう努めていきたいと思ひます。



文化シャッター
品質保証部
お客様相談室長
大井 勝

防火設備に関する検査報告制度への対応

建築基準法の一部改正により「定期報告制度」が見直され、防火設備は有資格者による専門的な定期点検が必要となりました。国が定めた建築物および特定行政庁が指定する建築物が点検対象となり、定期的な報告が義務づけられます。この「定期報告制度」は当社グループが掲げる2つのコンセプト、「ライフ・イン」「ライフロング・パートナーシップ」すなわちお客様との持続的な信頼関係を実践していくうえで絶好の機会となります。定期報告の対象となる防火設備はシャッターだけでも140万台はあり、BXグループでは2016年度より専門の組織を新設し、検査対応に向けて体制整備を行っています。今後も今まで以上にお客様に「安心」「安全」な快適空間の提供に努めていきます。

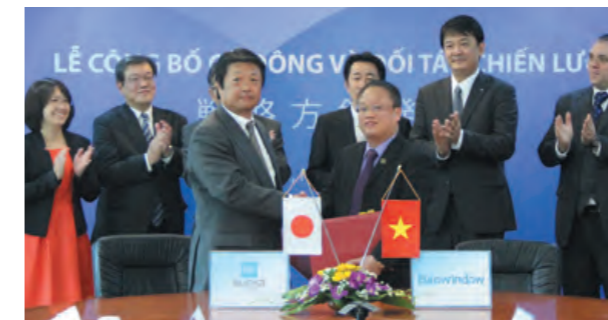
TOPICS 主な出展展示会

展示会	出展製品
高雄国際建材展(台湾)	住宅用オーバースライディングドア「フラットピット」
防災産業展in静岡	BCP対策製品
防犯防災総合展 in KANSAI 2015	防災関連製品
フードファクトリー2015	高速シートシャッター
食品工場改善設備展	
危機管理産業展2015	BCP対策製品
SAFETEC 2015	防災関連製品
第1回西日本防災・防犯危機管理展	
テントフェスタジャパン2016	BXテンパル製品

グループの成長・発展

ベトナムEurowindow社との資本提携

文化シャッターは、ベトナムにおける樹脂サッシ、アルミサッシのトップメーカーEurowindow joint Stock Companyとの資本提携を行い、アジア市場への本格参入に向けた協業をスタートさせました。当社は2009年にBX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.を設立し、各種シャッター・ドアの製造販売、および施工・メンテナンスを含めた事業を展開しており、今回の資本提携によりベトナム国内市場における相互の商品提供や共同開発が期待されます。



覚書を取り交す神田海外事業部長とHong社長

ベトナムにおけるグループシナジー効果

ベトナム・ハノイの都市開発エリアに新しくオープンした「イオンモールロンビエン」には、BX BUNKA VIETNAMをはじめとする当社グループ各社の商品が多数採用されており、グループの技術力が集結しています。地元企業から、ベトナムの工場では未経験のご相談をいただいたことがきっかけとなり、新たな挑戦の機会がお客様のご要望にお応えする結果となりました。協業関係にある不二サッシの

ご協力により、ベトナム人工事員への技術研修が実施されるなど、高いシナジー効果が発揮されました。



ハノイ・イオンモール
ロンビエン

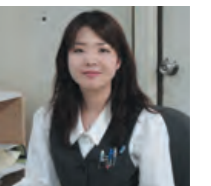
誠実な企業経営

コンプライアンス教育の実施

BXグループでは、全従業員を対象としたe-ラーニングやイントラネットで短時間に学べる「コンプライアンス便り」の配信等を通じたコンプライアンス教育を実施しており、従業員には携帯サイズのCSR行動規範を配るなど、良き企業市民としての行動を徹底しています。今年度からは各エリアにおけるコンプライアンス研修を開始し、コンプライアンス意識の向上を図る取り組みを展開しています。

VOICE

東北支店では全国に先駆けCSR統括部法務担当によるコンプライアンス研修を、業務担当者を対象に行いました。普段の仕事に関わりがあるコンプライアンスについて、図や身近な具体的事例などを用いてとてもわかりやすく説明していただき、興味深く聞くことができました。



文化シャッター
東北支店
吉田 美江

TOPICS 主な受賞 (2015年度)

受賞製品	受賞名	主催
止水ドア「アクアード」	グッドデザイン賞	日本デザイン振興会
無線式危害防止装置「マジックセーフ」	グッドデザイン賞	日本デザイン振興会
BX止水板「ラクセット」	"超"モノづくり部品大賞「生活関連部品賞」	日刊工業新聞社
BX止水板「ラクセット」	読者が選ぶネーミング大賞「アイデアネーミング賞」	日刊工業新聞社
簡易型止水シート「止めピタ」	PVC DESIGN AWARD 2015「入賞」	塩ビ工業・環境協会

社会と共に

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
●被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施	●古本を集めて被災地や子どもたちを支援する団体へ寄付 ●「わたりこどもまつり2015」および「BXマルシェ東北うまいものフェア」を実施 ○
●当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み	●文京区との災害時における相互協力体制 → P19-20 ○ ●「文京区防災フェスタ」に出展 → P28 ○
●職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み	●BX新生精機が中学生の職場体験を受け入れ → P27-28 ○ ●本社エントランスにおいて社会福祉法人によるパンの販売を実施 → P27-28 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
●被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施
●当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み
●職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み

BXグループでは、創業以来、事業活動を通じての社会との関わりを大切にしてきました。2005年に「CSR憲章」を制定した後は、その傾向がより顕著となり、2015年度においても「社会と共に」の精神に則り、全国の事業所において、数多くの従業員がさまざまな活動を実施しました。下記に記載している活動はそのごく一部であり、その他、災害被災地での復興支援活動や、地元中学生・高校生を対象とした就業体験の受け入れ、チャリティーイベントへの協力など、当社グループ各事業所の従業員一人ひとりが、「地域のために」の思いを持って、各地域に根差した活動に自主的に取り組んだ結果です。今後も、「私たちだからできる社会貢献」を念頭に、地域社会にとって最適な活動に取り組み、良き企業市民として積極的に関わってまいります。

社会と共に委員長
文化シッター
人事総務部
課長
佐久間 真哉



企業市民としての社会貢献

わたりこどもまつり2015を実施

BXグループでは2011年の東日本大震災直後より、宮城県亘理町と交流を持ち、主に児童館の子どもたちを対象とした支援活動を継続して実施しています。2015年に亘理町が町制施行60周年を、当社が創立60周年を共に迎えた節目として、同町教育委員会他と共催した「わたりこどもまつり2015」を実施し、当社が支援する野口健氏による講演会や、浦和レッドダイヤモンズ選手OBによるサッカー教室、そして当社実業団チーム「Buzz Bullets」によるフライングディスク教室など、約600名のみなさまにご参加いただきました。



浦和レッズのOB選手によるサッカー教室

from STAKEHOLDER

亘理町は、大学4年間を仙台で過ごした私にとって、よく遊びに行った思い出深い場所でもあります。わたりこどもまつりに参加したことで、亘理町の子どもたちと交流でき、私自身も楽しませていただきました。復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、子どもたちの笑顔とパワーで乗り越えて欲しいと思います。



浦和レッドダイヤモンズ選手OB
ジュニアユースチーム
コーチ

内館 秀樹氏

第3回BXグループ富士山清掃活動

BXグループでは、アルピニスト野口健氏の活動に賛同し、協賛しています。第3回目となる富士山清掃活動には、BXグループや協力会社の従業員とその家族、総勢228名が参加しました。清掃活動後の講演会では、ヒマラヤ大震災発生

時に偶然現地に滞在していた野口氏の体験談が語られ、現地の惨状や環境問題について考える機会となりました。BXグループでは「ヒマラヤ大震災義援金」を立ち上げ、「野口健ヒマラヤ大震災基金」に寄付しました。



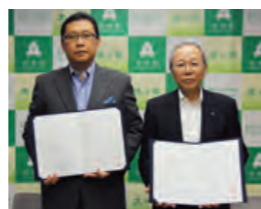
第3回BXグループ富士山清掃活動

人道的社会貢献

文京区との災害時における相互協力体制

文化シッターは、本社所在地である文京区との間で、大地震や風水害等が発生した場合における備えとして、「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました。この協定は、文京区地域防災計画に基づいて締結されたもので、災害時に帰宅困難者等の安全確保を図るため、本社施設の一部を開放し、災害発生日から起算して最長で3日間、施設と非常食をはじめとした災害用備蓄品を提供する内容となっています。

(左から)成澤廣修文京区長と当社
茂木会長(当時社長)による調印式



「平成28年熊本地震」被災地への支援

2016年4月の熊本地震発生にとまひ、文化シッターでは義援金500万円と避難所でのプライバシーを確保するための間仕切り400名分を寄贈しました。現地では当社福岡工場を拠点として、いち早く飲料水や簡易トイレ等の物資による支援を開始し、同時に破損や開閉困難となったシャッターへの取扱注意喚起および、迅速な応急体制で対応しています。今後も被災地のニーズに沿った支援活動を継続していきます。



熊本県庁での目録の贈呈

文化活動の支援

文京区地元クラブチームを支援

文京区を拠点に、日本初の地域コミュニティと大学コミュニティを融合したサッカークラブ「LB-BRB 東京」と、「文京LBレディース」。文化シッターは、両クラブが掲げる「サッカーを通じて、人をつくり、社会をつくり、未来をつくる」という理念に賛同、潮崎社長がスペシャルサポーターに就任し、オフィシャルスポンサーとして活動を応援しています。



LB-BRB東京

〈LB&BRBサイト
<http://lb-brb.tokyo/>〉

from STAKEHOLDER

この度、ご縁あってご支援いただくこととなりました。日本の中心である東京、さらに文化の中心たる「文の京」文京区において、真のスポーツ文化を体現すべく、日本のロールモデルとなりうるクラブをみなさまと共に創り上げていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。



一般社団法人
CLUB LB&BRB
共同代表理事 兼 監督
福田 雅氏

TOPICS Buzz Bullets

文化シッター「Buzz Bullets(バスバレッツ)」は、2016年7月に開催された第41回文部科学大臣杯全日本アルティメット選手権大会にて、前人未踏の18連覇を達成しました。メンバーは、後輩選手の育成指導や競技の普及活動の他、社会貢献活動においても大いに活躍しています。



「Buzz Bullets」:フライングディスクを使ったアルティメット競技における、唯一の実業団チーム

産学連携によるBXマルシェを開催

文化シッターでは、東洋大学社会学部社会福祉学科「社会貢献体験プログラム」に参加し、学生の受け入れを実施しています。当社の東北復興支援活動の一環である「BXマルシェ東北うまいものフェア」において、従業員と共にスタッフとして参画した学生は、お客様対応や集客活動に熱心に取り組みました。当日は、多くの地域住民や近隣企業のみなさまがご来場になり、出店した被災地の方々にも好評をいただきました。



会場の様子



宮城県亘理町役場のみなさんと東洋大生

from STAKEHOLDER

ビジネスメールのやりとり、自分の意思を相手にきちんと伝えることなど、学生にとって企業人との出会いは、貴重な学びの場となりました。企業と地域社会との関係、企業が取り組むCSRのありかた等、将来を描く機会ともなったようで、企業と大学の協働の意義を実感しました。



東洋大学 社会学部
助教
林 大介氏

TOPICS Buzz Bulletsの社会貢献活動

主催	大会・講習会
文京区スポーツ振興課	文京ジュニア・アスリートアカデミー(アルティメット講習会)4月・8月
vhaulkidsチーム	第1・2回vhaulkidsカップ
東京ドームスポーツ	文京区体育の日スポーツフェスタ
文京区スポーツ振興課 文化シッター	フライングディスク体験教室/ アルティメット大会 → P27
文京区スポーツ振興課 NPO法人えこお	スポ・レクひろば(知的障害者のための スポーツレクリエーションひろば)
埼玉県学生保育 レクリエーション	フライングディスク体験教室
Happy Disc Project	亘理町ドッジビー大会



東京都スポーツ推進大使「ゆりーと」との記念撮影

フライングディスク教室&アルティメット大会

文化シャッターフライングディスク部「Buzz Bullets」は、初めての方、お一人での参加やご家族でも気軽に簡単に楽しめる「フライングディスク教室」と、文京区初の大会となる「アルティメット大会」を、文京区との協働で開催しました。会場となった小石川運動場には、子どもから大人まで、約100名の参加者が集まりました。

アルティメットはいろいろな世代が共に楽しめるスポーツであり、会場の至るところから大きな歓声があがり、おおいに盛り上がりました。

※アルティメット：フライングディスク（フリスビー）を用いたバスケットボールとアメリカンフットボールを融合した競技で、チーム内でフライングディスクを落とさずにパスをつなぎ、敵陣エンドゾーン内でディスクをキャッチすれば得点となります。

アルピニスト野口健氏による講演会を開催

文化シャッターが協賛するアルピニスト野口健氏による講演会を、大阪において開催し、大阪BXビルに入居する関西支店をはじめとする従業員のほか、協力会社の方にも多数ご出席いただきました。野口氏の壮絶な体験から語られる人間論や世界から見た日本の環境問題に多くの出席者が魅了され、心揺さぶられる講演会となりました。全国における講演会は、昨年度の姫路に引き続き2回目となります。今後とも、このような活動を全国的に展開していきます。



アルピニスト野口健氏

「トライやる(中学生の職場体験)」の受け入れ

「トライやる(中学生の職場体験)」は兵庫県が1998年より開始したインターンシップ制度です。BX新生精機ではその翌年から参加し、通算36人の生徒を受け入れました。受け入れた生徒や生徒の友人が当社に就職し、従業員として勤務している例もあり、地域との繋がりを感じる活動となっています。

また、2007年からは高校生のインターンシップの受け入れも開始しました。

作業内容は、部品から組み立て製品にする作業ですが、完成したときの喜びが毎回生徒の感想文に書かれており、感動しています。よき伝統を継承しつつ、新しいを生み出して今後も社会の一員でありたいと考えています。



作業する中学生たち



中学生の作成した感想レポート

地域の福祉団体によるパンの販売

文化シャッターでは、障がい者自立支援の一環として、月に一度、本社BXビルのエントランスロビーにおいて、社会福祉法人山鳥の会によるパンの販売を行っており、近隣住民の方々にも開放しています。2013年より開始したこの活動により、従業員からは「パンを購入することが支援に繋がり、気軽に参加できることで福祉について考える機会となった」「福祉団体の方や地域住民の方との距離が近くなった」などの声が上がっています。



「山鳥の会」スタッフによるパン販売の様子

小学校での避難訓練に参加

文化シャッターサービスでは、香川県内小学校の避難訓練に参加し、避難誘導方法についての指導を実施しました。実際に防火シャッターを作動させシャッターが降下した状態において、児童が安全に避難できるよう、児童の目線や動線についての注意事項等を交えながら、教職員の方々に体験していただきました。今後も障がい者の就労支援やシャッター破壊訓練のほか、積極的にこのようなご要望にお応えすることで、お客様に安心・安全に製品をご使用いただきたいと思います。



児童を誘導しながらの訓練の様子

「文京区防災フェスタ」に出展

文化シャッターは文京区主催の「文京区防災フェスタ」に昨年に引き続きブースを出展しました。

この「文京区防災フェスタ」は、警察、消防および自衛隊による救助訓練の実演や区内の大学・団体・企業等による展示ブース出展など、区民や区内在勤者に対して災害への備えを呼びかけるイベントとしてリニューアルされたもので、当社は2014年から防災関連商品の展示等を行っています。

当社のブースでは、代表的な止水製品の展示や紹介映像の上映などを行い、足を止めて展示品に触れたり、説明を熱心に聞いてくださる方が多く見られ、当社防災商品をPRする絶好の機会となりました。

文京区との「災害時における相互協力に関する協定」締結(→P25)は、2014年の「文京区防災フェスタ」への出展がきっかけとなったものです。



文京区教育の森公園で行われた防災フェスタ



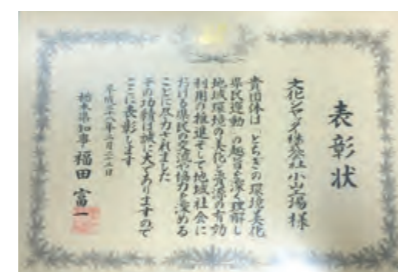
止水製品の展示

BX BXグループのエリア活動

BX GROUP BXグループでは、全国にある各事業所が主体となってCSR活動を推進しています。

「環境美化県民運動」表彰受賞しました

文化シャッター小山工場では、工場周辺の定期的な清掃活動のほか、豊穂川の「桜ライトアップ活動」の実施や思川河川敷で実施されている「ふるさと清掃活動」への参加等の活動が認められ、「環境美化県民運動」の表彰を受けました。同賞は、「とちぎの環境美化県民運動」の表彰を受けます。



表彰状

趣旨を理解し、地域における環境美化活動の推進に顕著な功績、功労のあった団体等を表彰するものです。

今回の受賞を通して思いを新たに、これからも地域に根づいた清掃活動や社会貢献活動に取り組んでいきます。



環境美化功労賞授与式

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● 電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減 (2014年度比1%削減)	● 省エネ活動やLED、太陽光発電システム等の導入によりエネルギー原単位の削減目標を達成 ○
● ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開	● 文化シャッターの7工場、グループ会社の3工場でゼロエミッションを達成維持 ○
● サプライチェーン全体での環境負荷低減の推進	● 調達ガイドラインの見直し △
● 「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発	● HEMS対応の窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を発売 ○
● 自主的な環境保全活動の推進と支援	● 「よなご環境フェスタ2015」等の環境イベントに出展し、子どもたちの環境保全活動を支援 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
● 電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減 (2015年度比1%削減)
● ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開
● サプライチェーンと連携し、環境負荷を低減
● 「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発
● 自主的な環境保全活動の推進と支援

BXグループでは地球規模で深刻化する環境問題に対し、CSR憲章「地球と共に」に基づき、事業活動とお客様に提供する商品やサービスを通じた環境保全に取り組んでいます。2015年度は、省エネ機器の導入やグループ全体で節電を継続することにより事業活動におけるエネルギー原単位の低減を実現するとともに、HEMSに対応した窓シャッターなどお客様のエコと快適な暮らしをサポートする商品の提供を行いました。また、ゼロエミッション活動をグループ会社に展開するとともに、施工現場などで発生する廃棄物についてもリサイクルを推進しました。2016年度は、「エネルギーの見える化」により事業活動における省エネ活動を推進するとともに、サプライヤーのみならずと連携し環境保全の取り組みを進めていきます。



環境負荷を軽減した企業経営

グループ全体で環境負荷低減活動を推進

BXグループでは、エコアクション21を基盤とした環境経営システム(EMS)を構築し、グループ全体をあげて環境法令の遵守、環境負荷の低減に取り組んでいます。文化シャッター小山工場、BX新生精機、BXテンパル埼玉工場では、環境マネジメントの国際規格ISO14001認証を取得しています。

省エネの取り組みについては、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、ガスヒートポンプエアコンへの切り替え、電力デマンドの適正な管理によるエネルギー使用の平準化、太陽光発電システムの導入、およびエコドライブの推進等の取り組みにより、電気使用原単位を5.2%、ガソリン使用原単位を3.3%削減(2014年度比)しました。

廃棄物については、グループ全体で廃棄物の分別、リサイクルを推進し、総排出量を36.3%削減(2007年度比)しました。ゼロエミッション活動については、文化シャッター全7工場で達成しています。さらに、グループ会社にも活動を展開し、新たにBX鐵矢を加えた3工場でもゼロエミッションを達成することができました。

また、生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。



掛川工場(LED照明)

BX鐵矢廃棄物分別

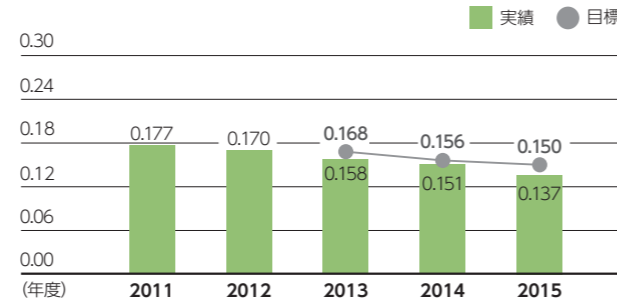
VOICE

BX鐵矢は、以前より「エコアクション21」の認証を取得していましたが、BXグループ加入をきっかけに、もう一步踏み込んだ「ゼロエミッション」を目標に活動し、2016年3月末に達成することができました。エコアクション活動で分別はある程度できていたため最大の課題はリサイクルでした。リサイクル可能な品目、回収時の出し方などを確認して業者を決めました。分別に不備があった場合は、現場の写真を撮り全体会議で従業員に周知し協力してもらいました。今まで捨てていたモノがリサイクルされることにより、少しでも地球環境保護に役立てばと思います。

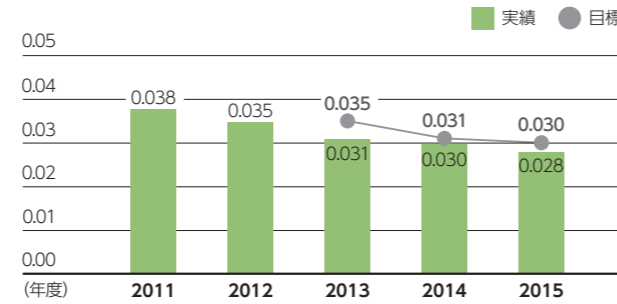


BX鐵矢
業務課
渡邊 新太郎

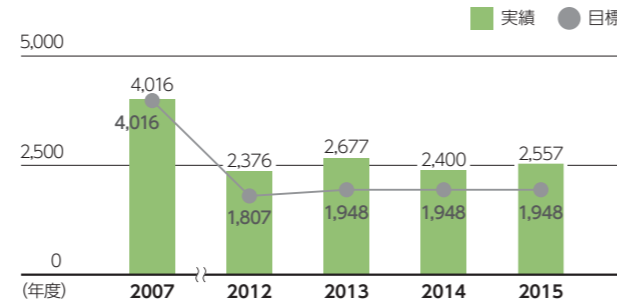
電気使用原単位の実績と削減目標 単位(千kwh/百万円)



ガソリン使用原単位の実績と削減目標 単位(kl/百万円)



廃棄物排出量の実績と削減目標 単位(t)



環境配慮技術・商品開発

スマートフォンで家じゅうの窓シャッターをコントロール

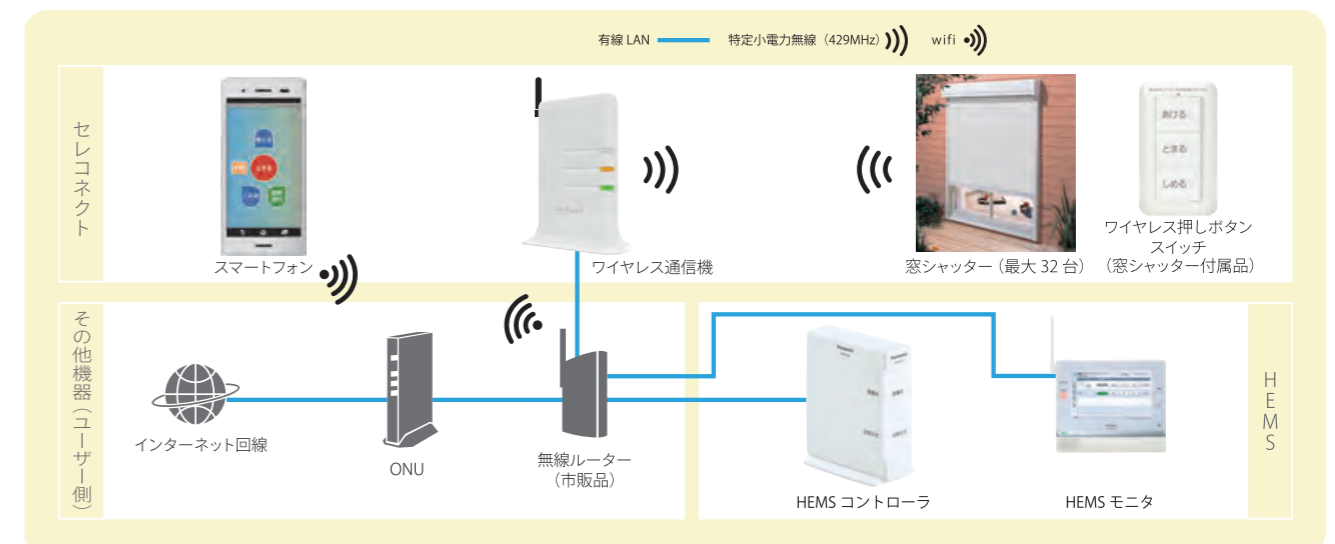
スマートフォンの操作で家じゅうの窓シャッターをコントロールし、多機能タイマーにより安心かつ快適な暮らしをサポートする電動窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を開発しました。

「マドマスター・スマートタイプ」は、住宅の家電や電気設備の使用量を可視化し、自動制御で効率的に節電する管理システム「HEMS」の標準通信規格ECHONET Lite*に準拠した業界初の窓シャッターです。

スマートフォンを活用することで、窓シャッターの開閉状況を外出先から確認できると同時に、帰宅が遅くなるなど戸締まりが心配なときや、台風や竜巻の発生時にも素早い対応が可能で、防犯と防災の両面で安心・安全をサポートできるようになりました。今後も、エコで安心かつ快適な暮らしをサポートする製品やサービスを開発し、需要拡大と普及に貢献していきます。

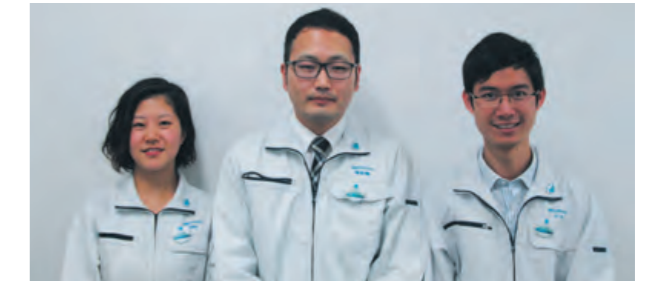
*ECHONET Lite: 家電機器、スマートメーター、太陽光発電システムなどを含む約80種類以上の機器と通信できるHEMS構築のための通信規格。ISO規格、IEC規格として国際標準化されています。

スマートタイプHEMS接続イメージ



VOICE

2020年に義務化される改正省エネ基準に向けて、住宅メーカーや電機メーカーがHEMS導入に力を入れています。このような市場環境や動向をいち早くつかみ、他社に先駆けてHEMSと連携できる電動窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を開発しました。窓シャッターは日射遮蔽による室内温度上昇の抑制に効果があり、エネルギー利用の最適化というHEMSの目的に合っています。当社の強みである無線技術を活用し、窓シャッターの防犯、防災の機能をより高め、さらに省エネにも貢献できる新しい価値を生み出すことができました。これからもお客様の視点で、かつ地球環境の保全にも役立つ商品を提案、開発していきたいと思ひます。



文化シャッター 商品開発部 開発一部
開発二部
田村 淑佳 岡田 海渡、DAO DAC NGOC

自主的な環境保全活動

よなご環境フェスタで環境ワークショップ開催

「よなご環境フェスタ2015」が2015年9月19日に米子市文化ホールで開催されました。この催しは、身近な自然環境から地球規模の環境問題について、市民一人ひとりが学び、考え、環境保全意識を高めてもらうことを目的とした米子市主催の環境イベントです。米子市からの要請を受けて、初出展しました。

文化シャッターのブースでは、建築解体現場や工場などから排出される廃木材と、廃棄処分となったプラスチックを原材料とした100%リサイクル素材である『テクモク』の端材で写真立てを作るワークショップを開催しました。

参加した子どもたちは、学校等で集めているペットボトルキャップがリサイクルされてこのような材料に生まれ変わることや、ベンチやデッキなど身近な建材製品として世の中での役に立っていることを知り、日々の環境への取り組みの大切さを改めて実感していたようでした。

今後も、エコ建材の普及を通じて、環境負荷の低減に努めていきます。



よなご環境フェスタ2015

VOICE

今回の「よなご環境フェスタ2015」は子どもを中心に開催されたイベントでしたが、使用後も廃棄されることなく再生される『テクモク』の製作工程に、大人も一緒に驚いていたことがとても印象に残りました。また、このイベントでは来場者に『テクモク』の端材から写真立てを作るワークショップを開催しました。このような体験型の催しは、子どもの関心を引き、楽しみながら環境問題を考える機会になったのではないかと思います。今後もこうした活動を継続していくことで、次代を担う子どもたちの環境意識をさらに高めていくことが大切だと感じました。



文化シャッター
中四国支店鳥取営業所
大久保 洋子

化学物質の適正な管理

生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

化学物質 大気への放出量・移動量 (t)

	大気への放出量	移動量
エチルベンゼン	29.6 ↓	2.6 ↑
キシレン	66.9 ↓	6.4 ↑
トリメチルベンゼン	0.0 ↓	0.0 ↓
トルエン	33.3 ↑	10.0 ↓
鉛その他化合物	1.2 ↑	11.5 ↓
その他	1.0 ↓	1.7 ↓
合計	132.0 ↑	32.2 ↑

TOPICS 環境法令遵守の取り組み

小山工場では、生産工程において化学物質を使用しているため、管理、および汚染防止に取り組んでいます。水質汚濁汚染法の改正にともない、工場内の化学物質を使用している関連施設（貯蔵施設、付帯する配管等を含む）について調査を行いました。その結果、「化学物質の地下浸透」の可能性がある塗装ラインの排水水集水施設について、トレンチ内に塩ビ配管を通し、排水処理設備までの配管を地上化するなどの改修を実施しました。これにより、汚染防止と定期的な保守が行える環境を整えました。

また、排水処理設備を新設する際には、法令の構造基準に則った設備の導入を行いました。今後も、年々強化される環境法令の遵守・徹底に努めていきます。



水濁法対応施設

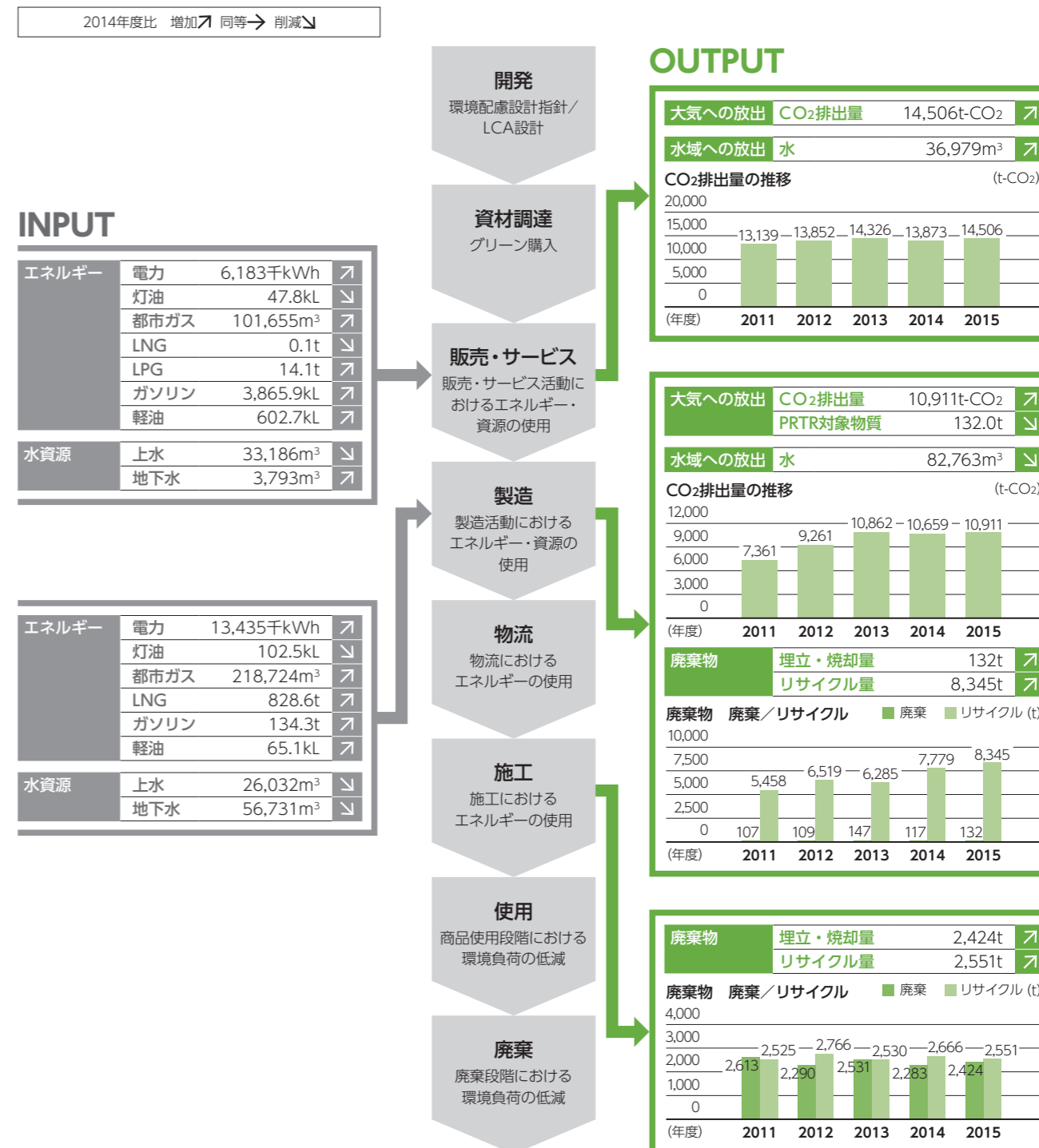
BXグループ 環境負荷の全体像

BXグループ・環境方針

環境理念	行動指針
人・社会・環境にやさしい商品づくりに積極的に取り組み、「快適環境のソリューショングループ」として健全で豊かな社会の実現に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネやリサイクル活動を積極的に推進します。 ・環境関連法規制及びその他関連事項を遵守し、環境汚染の予防と継続的な改善に努めます。 ・環境保護・改善に寄与する製商品の開発・設計、及び資材の購入に努めます。 ・製造～販売～物流～施工及びアフターサービスの各段階でもたらされる環境負荷の低減に努めます。 ・社員一人ひとりが環境への意識向上を図るとともに、企業市民として環境保護活動を推進します。

2008.6.12 代表取締役社長 茂木 哲哉

2015年度の事業活動による環境負荷の全体像



働く仲間と共に

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● イノベーション人材の育成を目指して、環境や制度を整備する	○
● 多様な人材を育成する施策で、従業員のモチベーション向上を図る	○
● 生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る	○
● 従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む	△

● 人事制度の改革および拡充を図り、イノベーター育成のための起業塾生による成果発表会を実施

● 育児休業制度や介護・特定疾患休暇積立制度の実施
● 理想の工場構想プロジェクトの実施

● e-ラーニングによるメンタルヘルス学習や健康相談日の設定

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標

- 自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図る
- 従業員同士が活発なコミュニケーションを図ることができる環境や制度を整備する
- 生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る
- 従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む

2015年度も「働く仲間と共に」に基づいた数多くの取り組みが全国各地で実施されました。中でも、起業家精神を持った従業員を育成するための研修「起業塾」では、約10ヵ月の研修の中で、当社をとりまく環境や将来像について討議し新事業・新商品を提案することで、発想を転換する力などが養われたと思います。また、海外派遣制度では上司推薦から公募方式へ変更するなど、従業員のチャレンジ精神と組織風土の革新を図りました。

2016年度は、数年取り組んできた「自ら手を挙げチャレンジする」ということを組織風土として浸透させつつ、全ての従業員が会社や自分の仕事への矜持を持つことができるようになっていきたいと思います。

働く仲間と共に委員長

文化シャッター
人事総務部
部長

宮下 貴博



人権の尊重

ワークライフバランスの推進

BXグループでは、ワークライフバランスの実現をめざし、育児や介護をしながら仕事と家庭を両立させ、充実した生活を送れるよう、多様な働き方への支援に取り組んでいます。育児休業制度では子どもが3歳に達するまで取得できる育児休業制度や6歳に達するまで利用できる短時間勤務制度を採用しています。また介護・特定疾患休暇積立制度においては、失効する(時効で請求権がなくなる)年次有給休暇から、年間5日を限度に積立て、ご家族の介護や特定疾患に罹病した場合に、有給休暇を取得することができます。今後もBXグループでは、従業員がいきいきとその能力を発揮できる環境整備に取り組んでいきます。

メンタルヘルス対策

BXグループでは、産業医による「健康相談日」の設定や、e-ラーニングでのメンタルヘルス・セルフケア教育を通じ

て、従業員のこころの健康管理に取り組んでいます。特に健康相談では、定期健康診断結果の相談や、従業員の体調に関することなどを産業医に相談することで、不安の解消に努めています。また、月に一度開催される「衛生委員会」においては、産業医による職場安全巡視や安全衛生に関する講習等を行い従業員に周知するとともに、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

雇用の創出

障がい者が活躍できる職場づくり

BXグループでは、全ての人がその能力を発揮し、自らの個性を活かして活躍できる職場づくりの一環として、積極的な障がい者雇用を推進しています。2015年3月時点での障がい者雇用率は2.0%であり、民間企業法定雇用率を達成しています。今後も継続的な雇用を推進していきます。

満足度の向上

豊かな発想を育成する人事制度の拡充

文化シャッターでは、従業員のモチベーションの向上をめざした、人事制度・教育研修の拡充に取り組んでいます。グループ内インターンシップ制度や、ジョブ公募制度、海外派遣制度に加え、新たにイノベーションや新規事業に自由な発想力を活かすための起業塾研修やBXベンチャー制度を導入しました。今後も従業員の成長を促す、制度・教育研修を充実させ活用することで、自らが考え、進んで行動できる人材を育成していきます。



ベトナム人スタッフへの日本語勉強会

女性目線の“ことづくり”をめざして

BXグループでは、女性目線“ことづくり”をめざし、女性従業員による新事業・新商品開発を目的とした「カンパニープロジェクトなでこBX」を実施しています。「第二期なでこBX」では、「女性ならではの視点と価値観を採り入れ、新たなビジネスチャンスを生み出すこと」を継承し、メンバーも新たに新事業立案活動を行いました。集大成として立案した新たな建材事業は、昨今の社会環境や意識の変化を反映しており、メンバーの熱意がこめられた提案となりました。



第二期なでこBX

理想の工場構想プロジェクト

このプロジェクトは、2015年度の製造部門方針の一つである「人材育成」の一環として、全国7工場と製造企画部から選出された次世代を担う14名の参加により行われました。メンバーは「5Sの基準作り」や「IE実習」などに取り組みながら、「文化シャッターとしての理想の工場」を構想し、製造部門方針発表会において発表しました。今後はプロジェクトのメンバーが中心となり、プロジェクトで構想した「理想の工場」を基に革新的工場の実現を図ります。



VOICE

約2ヵ月半にわたり、ベトナムでの研修に参加しました。異文化に戸惑うこともありましたが、懸命に働くベトナム人スタッフの姿に励まされました。「言葉が通じなくても人には思いを伝えることができる」という現地で体感したことを、日本での実務を通じて後輩へと伝えたいと思います。



文化シャッター
中四国支店
設計センター二課
係長

鈴木 一

VOICE

このプロジェクトに参加して、日常の中で感じることをテーマとして育てたいと考えましたが、理想と現実、事業化の難しさを痛感しました。活動を通して多くの視点を学ぶ機会があり会社の活力となる新しい何かが生み出し、実現されるのが楽しみです。



BXテンパル
首都圏営業部
営業二課

矢野 三知代

VOICE

プロジェクトに参加し、全国の工場から集まったメンバーと約一年にわたり共に活動したことで、意識・目的を共有できる仲間を持つことは大変大きな財産となりました。このつながりを今後の業務にも活かしていきたいと考えています。



文化シャッター
製造企画部

森本 竜一

TOPICS 人事関連データ (集計範囲:文化シャッター)

※従業員数以外は「単体」で算出

項目	2013年	2014年	2015年
連結従業員数(人)	3,374	3,518	3,805
新卒新入社員人数(人)	29	42	47
新卒新入社員3年間の定着率(%)	97.92	94.25	92.37
離職率(%)	0.86	1.38	1.35
男女の平均年齢(歳)	男(44.5)、女(40.8)、全体(44.1)	男(43.2)、女(40.0)、全体(42.9)	男(42.8)、女(39.6)、全体(42.5)
平均勤続年数(年)	男(18.2)、女(16.4)、全体(18.1)	男(17.6)、女(16.3)、全体(17.5)	男(16.8)、女(15.3)、全体(16.7)
育児休業取得者(人)	15	12	18
短時間勤務利用者(人)	7	5	10
障がい者雇用率(%)	2.20	2.14	2.00
定年後再雇用実績(人)	30	28	34
女性管理職(人)	0	0	0

コーポレート・ガバナンス

企業経営の透明性を高め、迅速で適切な経営判断を行うために、コーポレート・ガバナンスの強化を図っています。

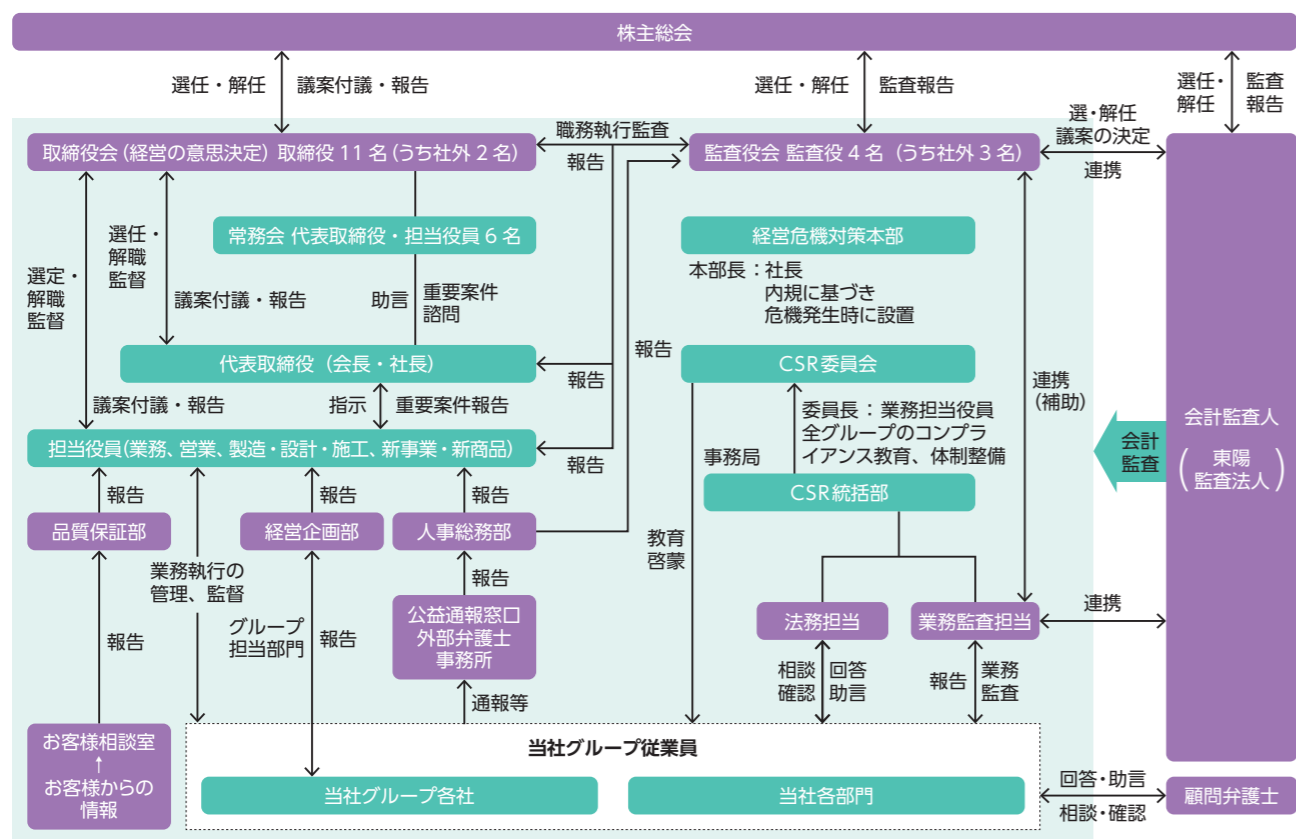
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

BXグループは、株主や投資家のみなさまをはじめとして、お客様、取引先、地域社会のみなさまなどのステークホルダーのご期待にお応えする事業活動を実現するために、継続的な経営の透明性向上の観点から、経営のチェック機能を充実させ、かつ公平性の維持を図るためのコーポレート・ガバナンス体制の整備、強化を推し進めています。2015年6月よりコーポレートガバナンス・コードが適用されたことに伴い、当社グループは同コードに盛り込まれた原則を適切に実践することで、持続的な成長による企業価値のさらなる向上を図ってまいります。また、取締役会は会社法等の関係法令に基づき、内部統制システム構築の基本方針を制定し、継続的に内部統制体制の整備、強化を図っています。

監査役監査・内部監査の実施

当社の監査役会は、社外監査役3名を含む4名の監査役で構成されており、経営の透明性確保を目的として、適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。監査役監査では、取締役会などの重要会議への出席や重要書類の閲覧、各部門およびグループ会社への往査などを行い、職務執行の全般を業務監査しています。内部

コーポレート・ガバナンス体制図



監査としては、CSR統括部業務監査担当や事業本部業務部が、事業本部、支店、工場、営業所などを対象に計画的な内部監査を実施しています。また、監査役は代表取締役との定期的な情報交換を実施するとともに、内部監査部門および会計監査人と随時情報や意見を交換し合う三様監査の体制を整え、監査が実効的に実施される体制を確保しています。

コンプライアンス

CSRガイドライン(CSR憲章)

BXグループでは、法令の遵守はもとより、社会規範や倫理に基づいた行動を一人ひとりが実践できるよう、遵守すべきルールを定めたCSRガイドラインを策定しており、e-ラーニング等を通じて周知徹底を図っています。またコンプライアンスに関する相談・連絡窓口として、「公益通報者保護規定」に基づき、社外に窓口を設置し、相談者が安心して利用できるよう、プライバシーを保護し、相談者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。

公益通報件数(件)

2013年	2014年	2015年
1	0	0

リスクマネジメント

製品事故・品質異常の対応

BXグループは、製品事故・品質異常に迅速かつ適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。製品事故や重大な品質異常の情報は各拠点を通じて品質保証部に報告され、法令、安全性、事故拡大などの観点から重大化する可能性があるかと判断された場合には、各会議において審議を行います。

会議では、法令遵守やお客様に「安心」「安全」にご使用いただけるかに主眼をおき、告知や改修の必要性を含め対応を検討し、社長との協議を経て告知や改修の最終決定を行います。

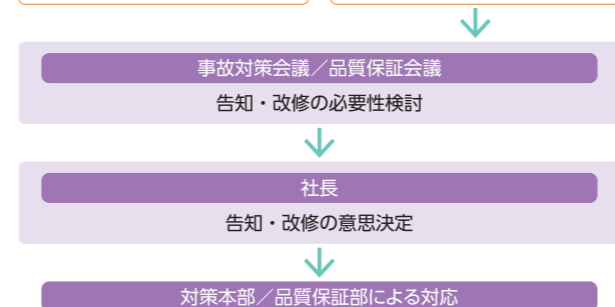
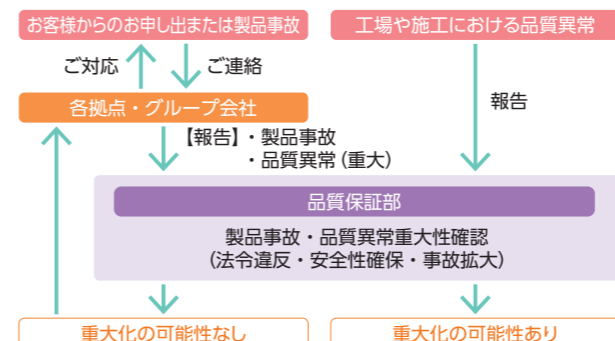
製品事故、品質異常の情報から、迅速に原因究明を実施し対策を講じることで再発防止を行います。

また、水平展開を行うことで改良・改善に努めています。

重大製品事故発生件数(件)

2013年	2014年	2015年
0	1	0

危機管理体制(製品事故・品質異常対応)



大規模災害発生時への備え

文化シャッターでは、大規模災害が発生した場合の備えとして、下記の対策を実施しています。

- 「大規模災害時緊急対応カード」を配布し、周辺避難施設や、津波の到達時間や高さ等を把握できる体制を整備しています。また、帰宅困難が予想される場合には、早期帰宅等の対応を行っています。
- 全事業所において、勤務者全員の備蓄品を完備しています。特に本社ビルにおいては、来訪者および周辺住民のための追加備蓄をしています。
- 多数の勤務者がいる事業所においては、大規模災害発

生を想定した防災訓練を定期的に行っており、冷静に安全対策を講じるための訓練を行っています。

- 交通機関等が麻痺した場合に備え、本社ビル勤務者を対象とした徒歩帰宅訓練を実施しています。今後は大阪や名古屋等の都市部拠点においても同様の訓練を実施する予定です。

製品の安定供給

BXグループは、大規模災害が発生した場合を想定し、安定した製品の供給を行うための取り組みをしています。

- 被災状況を迅速かつ詳細に把握するため、各工場に衛星通信器を設置し、本社を含めた拠点間の連絡体制を構築しています。
- 工場が被災した場合は、他工場への生産情報伝達により、製品の代替生産を可能とするバックアップ体制を構築しています。
- 原材料については、複数の供給拠点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築しています。
- 製品のデリバリーは、取引先や交通インフラの被災状況を迅速に把握し、最適なルートの検索や車輻等を確保する体制を構築しています。
- 主要部品や部材については、複数の調達ソースと東西デポを活用した在庫のバッファー機能により、安定的な供給体制を構築しています。
- 各サプライヤーに対しCSR調達に関するガイドラインを浸透させ、さらなる安定供給の徹底を図ります。

情報セキュリティ

BXグループでは、情報資産のセキュリティを確保するため、「電子情報管理規定」「ハードウェアおよびソフトウェア管理規定」を制定し、これに基づく管理体制のもと、積極的にセキュリティ保持活動に取り組んでいます。

2005年より全社PC端末に対する管理機能強化、PC本体およびUSBメモリ等外部媒体の暗号化による情報漏洩対策を行っており、さらにiPad等のモバイル機器についても、遠隔情報消去やパスワードの強化等の対策を行っています。また災害を想定した取り組みとして、全サーバーをデータセンターに集約し、バックアップを含め安全な環境を構築しています。なお、2015年度は情報セキュリティに関する重大な事故等の発生はありませんでした。

第三者意見

駿河台大学経済経営学部教授・博士
(経営学)

水尾 順一様

(株)資生堂を経て1999年駿河台大学助教授、2000年教授、現在に至る。日本経営倫理学会副会長、(株)アデランス社外取締役、(株)西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員、経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書「サステイナブル・カンパニー：「ずーっと」栄える会社の事業構想」(株)宣伝会議など多数



Check:修正— Action改善) のマネジメント・サイクルを「見える化」することにより、「イノベーションをすすめ経営改善を図る」ことがあります。当報告書では、社是・経営理念をもとにCSR憲章の4つのテーマ別に15年度の目標(計画)と実績が示され、16年度に向けた総括と今後の取り組みを明確にすることで全社共有を行い、各部門の取り組みにも反映されています。これは、経営品質の向上に向けた活動そのものであり、イノベーションの進化に結びつく報告書となっています。

今後の改善に期待する点

「お客様満足」の視点を一層鮮明に打ち出すことを期待します。

同グループにはCSR憲章・CSR行動指針・行動規範(以後、CSR憲章等)が体系化されており、従業員が共通の目標に向かって活動する羅針盤ともなっています。これらに基づく活動が、お客様や従業員、取引先、さらには地域社会の人々といった多様なステークホルダー(利害関係者)の喜びや満足を充足し、その結果として「企業の成長」が促進されるものです。その意味から、CSR憲章等の第一の項目にあげられている「成長と共に」は、「お客様と共に」と表現することで顧客満足の姿勢を鮮明に打ち出し、ステークホルダーからの理解も深まるものと考えます。その結果、CSR憲章等の他のテーマと一体になり、「ステークホルダー」重視のめざすべき方向がより明確になります。

社是・経営理念、さらにはCSR憲章等の実践により、潮崎代表取締役社長がトップメッセージで述べる「従業員の一体感」を醸成することで、ますますの「成長」に結びつくことを心から祈念します。

BXグループの「CSR報告書2016」について、企業でCSRの実務を推進し、大学でその理論構築をして「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、以下に同社の第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

特集記事をとおり、「防災ソリューション」への取り組みを知ることができます。

近年、震災や豪雨など自然災害が頻発し、重要な社会的課題となっています。同グループは、自治体、企業、さらには地域社会などを対象にした止水事業を中心として防災ソリューションの開発・拡充に取り組んでおり、その様子が特集記事をとおり開示されています。「社会と共に」、「地球と共に」行動する快適環境のソリューショングループとして信頼を高めています。

経営品質の向上に向け、CSR経営が「見える化」されています。

CSR報告書の狙いの一つに、PDCA(Plan:計画—Do:実行—

第三者意見をいただい



文化シャッター
CSR統括部
執行役員部長
松山 成強

当社グループのCSR報告書につきまして、水尾先生より貴重なご意見を賜り、深く感謝申し上げます。

当社グループは創業当初より、そのときどきの社会問題に向き合い、時代のニーズに沿った新しい価値の創造に挑戦し続けています。近年は気候変動による環境の変化が著しいですが、変化に適応するためのソリューションを提供するエコ・防災事業を通じて、CSVの実現をめざしています。

この度、そのような当社グループの取り組みについてご評価いただき、大きな励みになりました。今後も「快適環境のソリューショングループ」として、みなさまからご信頼いただけるよ

う、努力してまいります。

社是・経営理念に基づいたCSR憲章は、従業員が活動する指針となる、まさに“羅針盤”です。ご指摘いただきましたとおり、CSR憲章「成長と共に」は、お客様満足の追求がグループの成長・発展につながることをめざしています。その姿勢をステークホルダーのみなさまにより深くご理解いただくために、表現を改めるとのご提案につきましては、真摯に受け止め、今後の検討課題とさせていただきます。

本報告書は、みなさまと対話するためのツールと位置づけております。今後も、水尾先生はじめ、みなさまには忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただきたいと思います。

会社概要

コーポレートデータ

社名 文化シャッター株式会社

本社 〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号

TEL: 03-5844-7200 (代表) FAX: 03-5844-7201

設立 1955年(昭和30年)4月18日

事業内容 各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売

資本金 15,051百万円(2016年3月現在)

従業員数 3,805名(連結2016年3月現在)

営業所 全国218ヶ所(連結294ヶ所)

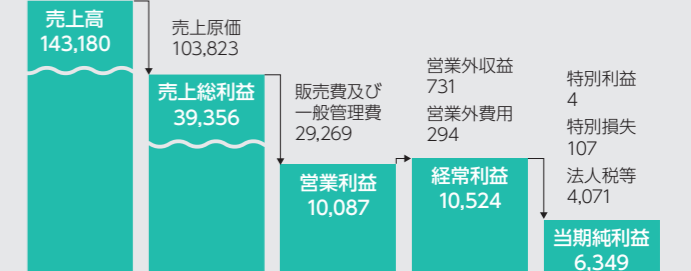
財務データ

BXグループでは、ステークホルダーのみなさまへの責任として、経営の透明性を高め健全な財務体質の強化を図るとともに、公正、適正に情報公開しています。

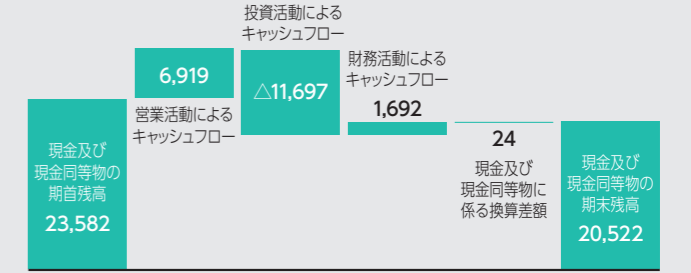
連結貸借対照表(B/S) 単位(百万円)

資産の部 合計 130,097		負債・純資産の部 合計 130,097	
現金及び預金 22,478	流動資産 81,024	支払手形及び買掛金 29,526	流動負債 46,266
受取手形及び売掛金 41,814		短期借入金 2,000	
商品及び製品 9,170		リース債務 426	
仕掛品 785		未払費用 4,578	
原材料及び貯蔵品 3,001		賞与引当金 3,159	
繰延税金資産 1,300		その他 6,574	
その他 2,578		固定負債 23,110	
貸倒引当金 △104	固定資産 49,073	長期借入金 3,000	純資産 60,721
有形固定資産 23,144	退職給付に係る負債 18,238	株主資本 58,144	
無形固定資産 4,191	その他 1,872	その他の 包括利益累計額 2,576	
投資その他の資産 21,737			

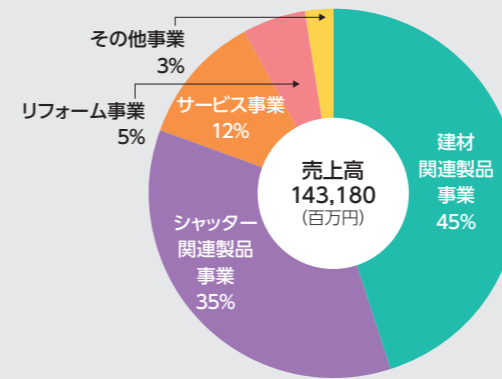
損益計算書(P/L) 単位(百万円)



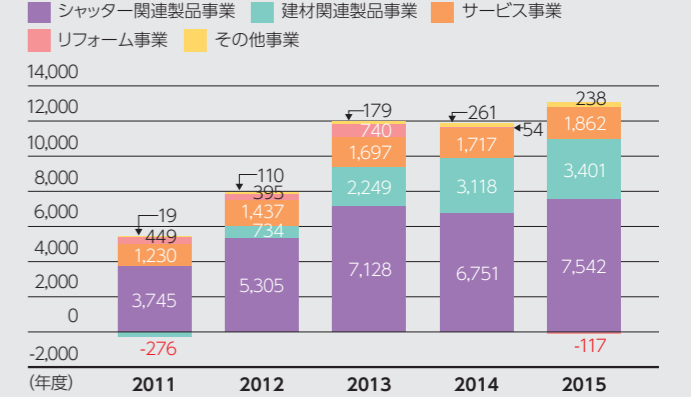
キャッシュフロー(C/F) 単位(百万円)



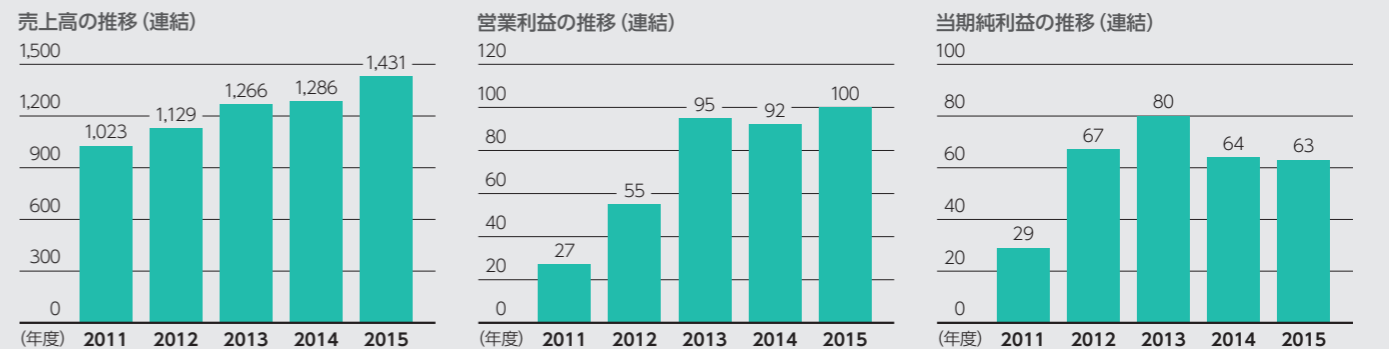
事業別売上高の構成比



事業別営業利益の推移 単位(百万円)



主要指標経年変化 単位(億円)





文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号
www.bunka-s.co.jp/

お問い合わせ先
CSR 統括部

TEL.03-5844-7330

FAX.03-5844-7331

